

後記

本号は、四人の専任教員、および卒業生の鈴木温子氏の論文に加え、大学院生・修了生による翻刻で構成されることとなった。昨年度ご着任になった土井光祐先生のご論は、今年度の国文学大会でご発表の内容に基づいてまとめられたものである。また、名誉教授の小野寛先生の新著を中嶋真也先生にご紹介いただいた。ご多忙の中、力作をお寄せ下さったことに心より御礼申し上げます。

彙報欄に報じたように、平成十八年三月に、本学科における初の博士課程の学位取得者が誕生した。本学科及び国文学研究の発展の上で誠に喜ばしいことであり、益々の活躍を祈りたい。

例年、秋の国文学大会では外部より講師をお招きして講演していただくのが常であるが、今年度は国文学会五十周年を記念して、高橋文二先生に駒澤大学国文学会の歴史を語っていただいた。数々のエピソードを点描しつつ来し方を振り返られた印象深い講演に、はるかなる我が学生時代を重ねて胸を熱くした卒業生も多かったことであろう。この伝統の上に立って、駒澤大学国文学会を今後いかに発展させていくか。我々に課せられた、重い使命である。

(K)

編集委員

近衛典子

岡田 豊

中嶋真也